

THE ROOF



勝呂 忠 《浮遊する3本の線》
1989(平成元)年 油彩・キャンバス

《『ハヤカワポケットミステリーブック』表紙原画》
油彩・キャンバスボード

『危険な道』2000(平成12)年

『巨匠の選択』1999(平成11)年

『ハロウィーン・パーティ』1969(昭和44)年



Contents

- 企画展「夢は叶えるもの ターシャ・テューダー 人生の軌跡展」
- 企画展「うつりゆく自然を描く 小野竹喬の世界」
- 企画展「アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで」
- 寄稿「1枚の絵の細部に」
- 報告「第2回風土記の丘から 日本大学工学部建築学科卒業設計作品展」
- Report
- Information



Photo by Richard W. Brown

© Tasha Tudor and Family, Inc. 2024

© Richard W. Brown. Permission for 2024-2026 Tasha Tudor exhibition by Richard W. Brown and Tasha Tudor and Family, Inc.

夢は叶えるもの

ターシャ・テューダー 人生の軌跡展

Tasha Tudor

“私は、自分も楽しみ、人も楽しませる人生を生きたいと思ってきました。”
生前、こう語っていたターシャ・テューダー（1915―2008）。アメリカの絵本作家、挿絵画家であるターシャは、雄大な自然の中で心豊かなスローライフを営み続け、飾らない、無理のないその自然体の生き方が多くの人々を魅了してきました。テレビ番組を通じてライフスタイルが紹介されて以来、日本でもターシャの前向きで自然に寄り添う丁寧な暮らしが、注目を集め続けています。

ターシャ・テューダーは、1915年アメリカのボストンの名家の家に生まれました。8歳のときに両親が離婚すると生活が一変、12歳から母の仕事を手伝いながら農業を始めます。画家だった母の影響を受けながら、絵本や挿絵本に親しんで育ったターシャは、1938年、念願だった絵本作家としてデビューを果たしました。1945年、30歳の時にニューハンプシャーに古い農場を購入し、酪農をしながら4人の子どもを育てました。その後、離婚を経て1972年にバーモント州へと移住、広大な敷地で19世紀農村風の生活を独りで営みながら、趣味のガーデニングをスタートさせます。56歳の時でした。ターシャが独自の



絵本原画

「クリスマスのまえのばん」（1999年）



絶筆の絵本原画「コーギビルのおいおいごと」（未完）



フリンジ付きシルクタフタドレス（1867年）



のセンスで30年以上かけて造り上げた、およそ30万坪の庭。そこには四季折々に美しい花々が咲き乱れ、世界中のガーデナーの憧れの的となりました。さらに、出版物を通じて知られるようになったターシャの生き方そのものが、多くの人々を勇気づけました。

本展では、これまで紹介される機会の少なかったターシャ・テューダーの人生に光を当てます。ニューハンプシャー州での子育て時代から夢を実現させた19世紀の農村の暮らし、絵本作家への道、バーモント州での一人暮らし・・・その豊かで魅力に満ちた人生の軌跡に迫ります。

本展には、絵本原画や下絵をはじめ、ターシャ・テューダーが日々の暮らしの中で愛用していた道具の数々、コレクションしていたアンティークドレスなど約250点が出展されます。

92歳で他界するまで、前向きに人生をたのしみ続けたターシャのメッセージは、私たちにやさしく寄り添い、多くのヒントを与えてくれることでしょう。

（館長 永山多貴子）

企画展

「夢は叶えるもの ターシャ・テューダー 人生の軌跡展」

2026年7月4日（土）～8月23日（日）

開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日 毎週月曜日（7/20（月・祝）開館 7/21（火）休館 8/10（月）開館）

観覧料 一般／1,200（960）円

高校・大学生、65歳以上／900（720）円

※（ ）内は20名以上の団体料金

※中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催 郡山市立美術館

監修 特別協力 ターシャ・テューダー・ファミリー、

ターシャ・テューダー・ソサエティ

協力 ターシャ・テューダーミュージアムジャパン

企画制作 東映

うつりゆく 自然を描く 小野竹喬の世界



重要文化財《波切村》(右隻) 1918年(展示期間：9月5日～9月23日)



《まゆはきを俤にして紅粉の花(習作)》1976年



《五月雨をあつめて早し最上川(習作)》1976年



《暑き日を海に入れたり最上川(習作)》1976年

※全て小野竹喬筆、笠岡市立竹喬美術館所蔵

小野竹喬(1889—1979)は、近代日本画を代表する作家のひとつです。9月5日からの展覧会「うつりゆく自然を描く 小野竹喬の世界」では、岡山県笠岡市にある竹喬美術館から作品をお借りし、竹喬が生涯を通してどのように自然と向き合い、風景表現を深めていったのかをご紹介します。

ここでは、竹喬晩年の大作《奥の細道句抄絵》について掘り下げてみたいと思います。

ご存じの通り、『おくのほそ道』は江戸中期の俳人・松尾芭蕉が東北周辺を旅した際に記した、俳諧を伴う紀行文です。「五月雨をあつめて早し最上川」などがよく知られ、須賀川、浅香山、二本松など、私たちに馴染みのある土地も登場します。

芭蕉は、従来の俳諧が重んじてきた規律や諧謔味から距離を置き、目の前の自然を手掛かりにした表現で、その奥に潜む風雅や余情を追求しました。こうした新しい俳諧観は俳壇に新たな風を吹き込んだほか、与謝蕪村や小杉未醒ら後世の画家たちが『おくのほそ道』を題材に俳画風の作品を残しています。

竹喬も10代の頃から俳句に親しんでいたこともあり、次第に芭蕉に惹かれ、「いつか『おくのほそ道』を絵画化したい」と思うようになったようです。ただし竹喬は、芭蕉の自然に向き合う真摯な姿勢に込めるため、俳画的な簡略な表現ではなく、本格的な日本画として取り組むことを念頭に置いていました。

それを実行に移したのは86歳の頃、おそらく画業の総決算のつもりもあったでしょう。竹喬は『おくのほそ道』に詠まれた句から10句を選び、実際に現地を訪ねるなどして、1年をかけて10の連作を完成させました。

平明な中に気品ある情趣を描いた晩年の竹喬の作風は、静かに余韻を残す芭蕉の俳諧と通じ合うものがあります。ぜひ展覧会で、竹喬が生涯を通して追い求めた自然表現の精華をご堪能いただければ幸いです。

(学芸員 鈴木えみこ)

企画展

うつりゆく自然を描く 小野竹喬の世界

2026年9月5日(土)～10月12日(月・祝) ※展示替えあり

前期：9月5日～9月23日 後期：9月25日～10月12日

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日(9/21(月・祝)および10/12(月・祝)は開館、9/24(木)休館

観覧料 一般／1,200(960)円 高校・大学生、65歳以上／900(720)円

※()内は20名以上の団体料金

※中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催 郡山市立美術館

特別協力 笠岡市立竹喬美術館

企画協力 青幻舎プロモーション

アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで

アーツ・アンド・クラフツ運動は、19世紀後半のイギリスでおこったデザイン運動です。産業革命によって機械による大量生産が進むなか、ウィリアム・モリス（1834―1896）らは、職人の手仕事に宿る美と創造性に価値を見いだします。人々の生活を彩る品々に美を求め、働くことの喜びと豊かな生活が結びついた社会を理想としたのです。その理念はイギリス国内にとどまらず、近代デザインの形成にも大きな影響を与え、今日まで受け継がれています。

本展では、日本でも高い人気を誇るモリスの壁紙やテキスタイルをはじめ、家具、工芸品、宝飾品、書籍、さらにはフランク・ロイド・ライト（1867―1959）設計によるステンドグラスまで、約170点を紹介します。多彩な作品の数々をとおして、アーツ・アンド・クラフツ運動が追い求めた「芸術と生活の調和」と、その豊かな創造の世界をご堪能ください。

（学芸員 新田 量子）



ウィリアム・モリス《いちご泥棒》1883年 Photo © Brain Trust Inc.



ティファニー・スタジオ
《三輪のリリーの金色ランプ》1901-25年
Photo © Brain Trust Inc.



ジョージ・ワシントン・ジャック
《サーヴィル肘掛け椅子》1890年頃
Photo © Brain Trust Inc.



ジェームズ・クロマー・ワット
《ホワイトメタルのエナメル・ペンダント》
1920年頃
Photo © Brain Trust Inc.

展覧会

アーツ・アンド・クラフツとデザイン
ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで

2026年11月14日（土）～2027年1月17日（日）

開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日 毎週月曜日（11月23日、1月11日は開館、翌日休館）

観覧料 一般／1,200（960）円

高校・大学生、65歳以上／900（720）円

※（ ）内は20名以上の団体料金

※中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催 郡山市立美術館

後援 プリティッシュ・カウンシル

企画協力 株式会社ブレントラスト

ウィリアム・モリス《ガーデン・チューリップ》1885年 Photo © Brain Trust Inc.

令和7年度

新収蔵作品

令和7年度もみなさまのご協力により、新たに作品を収蔵することができました。

購入ではオーブリー・ビアズリーの代表作のひとつといえる『サロメ』（オスカー・ワイルド著）をはじめ、ウォルター・クレインやアイサー・ラッカムの挿絵本など、イギリスの本12点が加わることで、当館の本（版）の美術のさらなる充実がはかられることになりました。

またこの度、三木宗策のブロンズ作品をご寄贈いただきました。平成27年に開催した回顧展以来、寄託作品として何度も展示させていただいた作品です。

イギリスの本の新収蔵作品は、今年度第1期の常設で2点を展示しました。第3期でも別の作品をご紹介する予定です。



1枚の絵の細部に

大串 潤 児

(国立歴史民俗博物館 教授)



図版1
遠藤正二『農村紙芝居の演り方』晴
南社、1942年。

郡山にも近い農村に生まれた遠藤正二はとても興味深い紙芝居実演を構想した人物である。遠藤は紙芝居を「農村の娯楽や教化、指導には、もつてこいの機能」をもつものにとらえ、「どこまでも子供たち自身に考えさせるといふ方法」で紙芝居製作・実演を行った。問いかけを重視し、絵も極力少なく、彼の作品を実演すると、子どもたちは「思いがけぬ問答」を始める。子どもの疑問、自主的な思考を重視したひとりの農村文化運動家が戦時戦後をどのように生きていき、戦時戦後の子ども達をどのように見ていたのか、興味深い問題であろう(図版1)。

子どもたちの「思いがけぬ問答」。そこにどのような子どもたちの声を聴き取ることができるのだろうか。子どもの声を聴き取るのは簡単なことではない。学校という場合は、戦時下にかぎらずいや戦時下であればこそ「少国民」規範というかたちで「おとな」あるいは社会の求める子ども像に覆いつくされているともいえる。もちろん子どもたちは「成長」(戦時下であれば「錬成」など)という表現のもとに、こうした規範や子ども像を自ら内面化していく。同時に、子どもたちは学校という場所で新しいことを経験もする。子どもたちは、新しい経験を重ねつつ、社会が求める子ども像や規範に同調しきれない「余白」(あるいは違和感)も持つ。言い換えれば、子どもは「余白」をつねに獲得しつづける存在である。



図版2
紙芝居『ボクラノチカビ』日本教育画劇出版、1942年1月。
16枚。子どもたちの綴方をもとに子どもたち自身が絵を書いた紙芝居作品。

それは、「戦争の時代」という最も非人間的な時代・社会状況のもとで、「子どもの自由とは何か」という問題を見つめる前提になるだろう。また子どもにとって「生」(将来の生)の選択肢の実存とその意味という問題を深く考えることに

子どもの声は、例えば作文や兵士への慰問文といった言語表現のみならず、絵画表現(子どもの書いた絵 図版2)からも聴き取ることができるだろう。また、身体動作、身ぶり、表情、持ち物からすらも子どもの声を聴き取ることは可能だ。このように考えてみると、「戦争と子どもたち」展に出品された作品群、その一点一点のなかに「画家たちが描き込んだ(込もうとした)子どもの声」を聴き取ることも大切なことなのだろう。このことは、「描かれた子ども像」としての絵画作品を、その細部に目を凝らしながら「見る」ということでもあり、その意味では絵に「戦争の時代」という大きな図柄を読み込むと同時に、画面の小さな細部にこそ「戦争の時代の子どもたち」の姿を読み込むことが求められているともいえるのである(図版3)。板橋・郡山・新潟と開かれた「戦後80年 戦争と子どもたち」展は、こうしたことも教えてくれた展覧会であった。

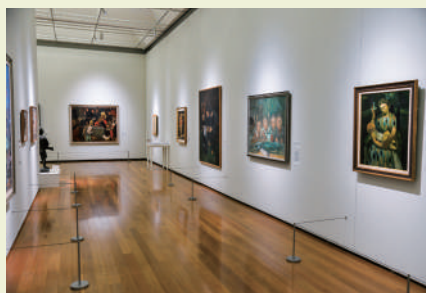


図版3
『慰問新聞』第1号、1944年1月。
緑日・お祭りの主人公は子どもたちである。戦争末期、鷺宮八幡宮のお祭りを描いたもの。
(『図録 戦後80年 戦争と子どもたち』青幻舎、2025年収録)。

企画展 「戦後80年 戦争と子どもたち」

会期：2026年1月31日(土)～3月22日(日)

板橋区立美術館、新潟市美術館と共同で調査から進めてきた企画展では、時代を振り返る充実した構成で多彩な出品作品が並びました。ここでは、図録への執筆とあわせ講演会講師も務められた、戦時下紙芝居の研究で知られる大串潤児さんに寄稿いただきました。会期中にはさまざまな関連事業を開催しました。(詳細は7ページ)



第2回風土記の丘から

日本大学工学部建築学科

卒業設計作品展

昨年度に続いて日本大学工学部建築学科卒業設計作品展が開催されました。卒業設計作品提出者の中から選抜された12人の作品には、今年も学生たちそれぞれの思いがこめられ、見学者の多くが熱心に見入っていました。

会期中には関連イベントを開催。プレゼンテーション・審査会では展示作品のなかから優秀作品が選ばれ、表彰されました。トークイベント「建築と美術」では、日本大学理工学部建築学科教授であり八戸市美術館長をつとめる佐藤慎也さんをゲストに、日本大学工学部建築学科の浦部智義さんとJIA福島地域会の阿部直人さんに当館永山多貴子館長が加わり、美術館と街づくりなどについても話が広がる時間となりました。また終了後は、当日オプザバーとして参加されていた永井久夫さん（文化施設プロデューサー）に急遽館内ツアーを開催していただくという思わぬ展開となりました。ミニトーク企画「建築と美術を楽しむ旅のススメ」は、JIAから村井弘道さん、阿部直人さん、三坂恭一さんがそれぞれの旅の楽しみ方、旅先での建築との出会いなどについて紹介、愉快的エピソードも交えてのお話でした。

会期終了後開催された「建築見学ツアー」では、博物館や図書館をはじめ、公会堂や合同庁舎など公共の建物が集まる麓山地区で現地集合、時代の異なる建築の見どころなどの話を聞きながら実際に歩いて体験を楽しみました。

第2回風土記の丘から 日本大学工学部建築学科卒業設計作品展

2026年2月10日（火）～23日（月・祝）

主催：日本大学工学部建築学科・郡山市立美術館

イベント

●トークイベント 「建築と美術」

日時：2月21日（土）13：00～15：00

講師：佐藤慎也さん

（日本大学理工学部建築学科教授／
八戸市美術館館長）

浦部智義さん

（日本大学工学部建築学科教授）
阿部直人さん（JIA福島地域会会員）
永山多貴子（当館館長）



●プレゼンテーション・審査会

日時：2月11日（水・祝）10：00～16：30

審査：（公社）日本建築家協会福島地域会



●同時開催「巡回ふくしま建築探訪展」

会期：2月10日（火）～23日（月・祝）

主催：郡山市立美術館、
福島県（建築住宅課）

会場：階段ホール



●「建築見学ツアー」

日時：2月28日（土）

10：00～16：00

講師：JIA福島地域会会員



●ミニトーク企画

「建築と美術を楽しむ旅のススメ」

日時：2月23日（月・祝）13：00～16：00

講師：村井弘道さん、阿部直人さん、
三坂恭一さん（JIA福島地域会会員）



MLA 連携事業

Museum（博物館・美術館）、Library（図書館）、Archives（公文書館）の頭文字をとって「MLA」と称し、郡山市では、歴史情報博物館、美術館、中央図書館、中央公民館等の社会教育施設が連携しながら、さまざまな文化芸術活動や読書活動の取り組みを行っています。

- 歴史情報博物館×美術館×図書館×スペースパーク
各施設の学芸員と司書による「博物館・美術館・図書館の役割と専門職の仕事～MLA連携トークセッション～」
2026年2月14日（土）
場所：歴史情報博物館
パネリスト：豊田 暁、高橋宏美、安藤亨平、仲田千鶴子、
安藤美賀子、田中有沙子、鈴木えみこ
進行：嶋根裕一、永山多貴子

- 大安場史跡公園「古墳まつり 春」への参加
2026年5月3日（日）
場所：大安場史跡公園
MLA連携事業の一環として、紙を折って型紙どおりに切って完成させる「紋きり」のワークショップを実施。

Report

企画展「戦後 80 年 戦争と子どもたち」関連

会期：2026 年 1 月 31 日（土）～3 月 22 日（日）

講演会「戦時美術の『子どもたち』」
2026 年 2 月 22 日（日）

場所：多目的スタジオ

講師：河田明久さん（千葉工業大学教授）



講演会「子どもの紙芝居、おとなの紙芝居
ー戦時下紙芝居を考える」

2026 年 3 月 1 日（日）

場所：多目的スタジオ

講師：大串潤児さん（国立歴史民俗博物館教授）



「総務法務課連携 戦後 80 年記念事業 平和を語り継ぐついで」
2026 年 3 月 14 日（土）

場所：多目的スタジオ

講師：福島富子さん（長崎市被爆体験交流証言者）

はやまっ子のみなさん

被爆者から聞き取りをした被爆体験や平和への思いを聞く第 1 部、第 2 部は市内の子供たちによる郡山空襲の悲劇を描いた「白いワンピース」の語りなど。



「第 59 回郡山市こども美術展」

2026 年 1 月 31 日（土）～2 月 8 日（日）

場所：ロビー

主催：郡山市小学校造形教育研究会

共催：郡山市教育委員会

協力：郡山市立美術館

図工の授業で制作された作品の中から、「特別賞」「金賞」「銀賞」に選ばれた作品が展示された。



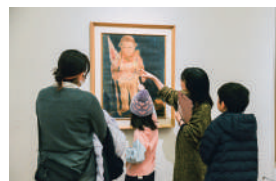
「いっしょに展示室に行ってみよう！《戦争と子どもたち》」

2026 年 1 月 31 日（土）・2 月 1 日（日）・7 日（土）・8 日（日）

場所：企画展示室

対象：小学 3 年生～中学生

戦時中、子どもたちはどんな暮らしをしていたのか、画家や彫刻家は、どんな思いをもって子どもたちの姿を描いたのかについて、学芸員と一緒に鑑賞しながら考えた。



令和 7 年度郡山市中学生

長崎派遣事業パネル展

2026 年 3 月 4 日（水）～22 日（日）

場所：展示ギャラリー

中学生が長崎で撮影した写真及び平和へのメッセージ、原爆資料関連パネル、核兵器廃絶をスローガンにしたポスターなどが展示された。



企画展「北斎・広重 大浮世絵展 ～二大巨匠！夢の競演～」関連

会期：2026 年 4 月 18 日（土）～6 月 21 日（日）

郡山市立美術館×福島県立美術館 連携企画

「ゴッホと浮世絵 トークイベント」

2026 年 5 月 1 日（金）

場所：多目的スタジオ

講師：濱田洋亮さん（福島県立美術館学芸員、当館学芸員）



記念講演会「北斎と広重 二大巨匠競演の魅力」

2026 年 5 月 23 日（土）

場所：郡山市中央公民館 多目的ホール

講師：山本野理子さん

（川崎浮世絵ギャラリー主任学芸員）



ワークショップ

「小さな動物を彫る一木彫体験講座」

2026 年 2 月 23 日（月・祝）・28 日（土）

場所：創作スタジオ

講師：黒沼 令さん

（彫刻家、郡山女子大学短期大学部准教授）



「卵黄テンペラで描いてみよう」

2026 年 3 月 20 日（金・祝）・21 日（土）

場所：創作スタジオ

講師：齋藤ナオさん（画家）



表紙の
作品



勝呂 忠 《浮遊する 3 本の線》1989(平成元)年 油彩・キャンバス
《『ハヤカワポケットミステリーブック』表紙原画》油彩・キャンバスボード
『危険な道』2000(平成12)年 『巨匠の選択』1999(平成11)年
『ハロウィーン・パーティ』1969(昭和44)年

勝呂忠(1926-2010)は東京生まれ、多摩造形芸術専門学校(現・多摩美術大学)卒業。モダンアート協会創立会員として、暗い色彩と太く厳しい線で戦後混乱期の人間像を描いた。その後、モザイク壁画研究のためイタリアに留学。帰国後は各地で壁画の制作をおこない、京都産業大学でも教鞭を執った。イタリア留学期の風景の印象が結実したイエローオーカーの色彩によって画面を覆った抽象画の作品が代名詞となる。《浮遊する 3 本の線》はその代表的な 1 点。一方で本の挿絵や装幀の仕事も多く、特に早川書房『ポケットミステリー』の表紙原画は1954年から半世紀にわたって長く描き続けられた。本(版)の美術を収集の柱のひとつとする当館では、勝呂の本にかかわる仕事も重視している。

第24回

風土記の丘の美術展

郡山市内の小学生による作品展

会期：2026年7月25日（土）～8月22日（金）

場所：美術館ギャラリー

第1期 7月25日（土）～7月31日（金）

穂積小学校、三和小学校、多田野小学校、河内小学校、片平小学校、喜久田小学校、熱海小学校、安子島小学校、守山小学校、御代田小学校、高瀬小学校、谷田川小学校、金透小学校

第2期 8月1日（土）～8月7日（金）

芳山小学校、橘小学校、小原田小学校、開成小学校、芳賀小学校、桃見台小学校、赤木小学校、薫小学校、富田小学校、富田東小学校、富田西小学校、大槻小学校、白岩小学校

第3期 8月8日（土）～8月14日（金）

東芳小学校、桜小学校、桑野小学校、大島小学校、緑ヶ丘第一小学校、小山田小学校、大成小学校、朝日が丘小学校、宮城小学校、海老根小学校、御館小学校、西田学園、湖南小学校

第4期 8月15日（土）～8月21日（金）

郡山ザベリオ学園、日和田小学校、高倉小学校、行健小学校、行健第二小学校、明健小学校、小泉小学校、行徳小学校、安積第一小学校、安積第二小学校、安積第三小学校、永盛小学校、柴宮小学校

コレクショントーク

4室ある常設展示室では5つのコーナーに分けて、担当者がテーマの設定、作品のセレクト、展示プラン作成をおこなっています。年4回の展示替えのため、1回の展示期間は約3カ月。この間に担当学芸員によるコレクショントークを開催しています。2026年度第1期は企画展混雑のため展示終了間際7月4日・5日に開催します。第2期は表紙作品の作家・勝呂忠の特集、第3期では企画展と関連した特集なども予定されています。ぜひ多くの皆さまのご参加をお待ちしています。（開催の期日は当館ホームページでお知らせしています。）



常設展示のご案内

7月8日～9月27日

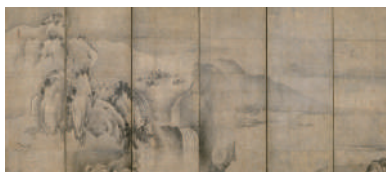
- 1 労働の日々
- 2 印象派で交わる美術
- 3 特集 勝呂忠
- 4 自然をとらえる
素材が語る工芸

9月30日～1月17日

- 1 モリス時代のグラフィックデザイン
- 2 栗原忠二とその時代
- 3 没後20年安藤重春～作品修復からみえたこと～
- 4 美しい図譜の世界／
ドレッサーとアーツ・アンド・クラフツ運動

雪村特別展示

会期：2026年10月24日（土）～11月3日（火・祝）



雪村周継《四季山水図屏風》左隻



雪村周継《四季山水図屏風》右隻

TOPICS



130 CAFE
ジュジュイチサンマルカフェ

営業時間／11:00-17:00
電話／024-942-2250

【ランチメニューのご紹介】

●季節限定パスタ ミニサラダ付

¥1,390円(税込)

お客さまに人気のカフェからはランチメニューをご紹介します。心動いた作品の感想をおしゃべりしながら、美味しいランチタイムはいかがでしょう。

目と心とお腹も満たされるひとときをお楽しみください。

臨時休業や営業時間短縮の日もございます。あしからずご了承くださいませ。みなさまのご来店をお待ちしております！



香ばしベーコンと夏野菜の
完熟トマトソースパスタ

郡山市立美術館
Koriyama City Museum of Art

発行日／令和8年7月3日

〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地 130-2
TEL.024-956-2200 FAX.024-956-2350
<https://www.city.koriyama.lg.jp/site/artmuseum/>

敷地内禁煙



web

Facebook

Instagram